

様式第2号(第7条関係)

会議の開催結果

1 会議の名称	さいたま市総合振興計画審議会第1部会(第4回)
2 会議の開催日時	平成25年6月20日(木) 14時00分から16時20分まで
3 会議の開催場所	市役所第二別館 第1会議室
4 出席者名	審議会委員: 作山康部会長、久野美和子副部会長、石關精三委員、猪瀬良一委員、上田彰一郎委員、丸山繁子委員、森本章倫委員 事務局: 江口明男、松井雅之、小島豪彦、松尾真介、富田昌洋、南友和、鈴木慶一
5 議題及び公開又は非公開の別	議題 ・分野別計画(原案)について(環境・アメニティ分野) ・分野別計画(原案)について(都市基盤・交通分野) ・分野別計画(原案)について(産業・経済) ・(仮称)重点戦略に関する意見交換 ・その他 公開又は非公開の別 公開
6 非公開の理由	—
7 傍聴者の数	0人
8 審議した内容	別紙、議事概要のとおり
9 問合せ先	政策局政策企画部企画調整課 電話番号 048-829-1035
10 その他	

さいたま市総合振興計画審議会 第1部会（第4回）議事概要

第1回から第3回までの部会の主な意見と、素案に対する修正の内容を確認した後、分野別計画（原案）について審議しました。

なお、本日の審議を踏まえた文言修正については、正副部会長及び事務局に一任されることになりました。

議題（1）分野別計画（原案）について（環境・アメニティ）

事務局から、資料1-1及び1-2に基づき、分野別計画原案について説明があり、計画全体を審議しました。

【主な意見】

- 施策1：地域から取り組む「環境への負荷の少ない持続可能な社会」の実現
 - ・成果目標「市民一人あたりの温室効果ガス排出量」の目標値は、環境先進都市を目指すということにふさわしい目標値であると良い。
 - ・一目で施策内容が分かるような図表等を、参考資料として掲載することも考えられる。

- 施策2：ともに取り組み、参加する めぐるまち（循環型都市）の創造
 - ・分かりやすくなったと思うが、いかに参加してもらうかが重要であり、そのためのどのように舵をとるのかということを感じ取れる表現にすると良い。情報発信だけでは理解できない人もたくさんいる。
 - ・「3R」、「2R」という言葉は浸透しつつあるが、用語解説は必要かもしれない。
 - ・工場によっては工業用水等を市から購入せず、施設内でまかなっているところもあり、極端に循環や再生利用を可能にすると、産業への影響が懸念される。

- 施策3：人と自然が共生する緑豊かな美しい都市の創造
 - ・タイトルを「人に喜ばれる美しい都市の創造」などとし、誰が「美しい」と感じるのかを加えた方が分かりやすい。

議題（2）分野別計画（原案）について（都市基盤・交通）

事務局から、資料2-1及び2-2に基づき、分野別計画原案について説明があり、計画全体を審議しました。

【主な意見】

- 施策1：低炭素で質の高い生活環境を提供する市街地の形成
 - ・運輸部門の二酸化炭素排出量も多いので、環境・アメニティの分野の成果目標と重複しても、成果目標を掲げてよいのではないか。
 - ・さいたま市は高速道路網が発達しているので、防災面では非常に有効だ。埼玉高速鉄道の早期延伸を戦略とすれば、東北自動車道との関係からしても経済面、防災面で有効である。

- ・ICTを情報発信だけでなく、防災や交通など幅広い視点で捉えて、情報インフラを整備する記述になると良い。
- ・施策1の施策展開は全体的に、低炭素なまちづくりの意味合いをもっと表現できると良い。特に(1)のタイトルが弱い印象があるので、「コンパクトで質の高い市街地の形成」などとすると良い。

○施策2：にぎわいや交流を創出する魅力的な都心・副都心の形成

- ・都心、副都心の説明が少なくて分かりづらいので、最終的に検討してほしい。

○施策3：暮らしや交流、活力を支える交通体系の構築

- ・鉄道駅周辺のまちづくりの記述が弱くて、公共交通軸に沿ったコンパクトなまちづくりという大きな流れが読み取れない。

議題(3) 分野別計画(原案)について(産業・経済)

事務局から、資料3-1及び3-2に基づき、分野別計画原案について説明があり、計画全体を審議しました。

【主な意見】

○施策1：活力ある地域産業を育てる環境の整備

- ・農業の後継者問題やブランドづくりについては、所有と利用を分けて考えなければ進まない。
- ・国では農業改革によって法人化や大規模化を進めている中で、さいたま市の農業の特色をいかに出せるかが大事である。防災機能などを複合させて、農地の付加価値を高めていくことが考えられる。

○施策2：さいたま市の特性を生かした新たな産業の創造

- ・意見を取り入れて良くなったが、施策展開(2)には、変革やイノベーションを生み出す方向性を明示してほしい。そうしなければ、ものづくり企業は生き残れない時代になっている。
- ・施策展開(4)は、観光振興より、地域とともに交流やにぎわいづくりに取り組むというニュアンスを出せると良い。
- ・公民学連携については「技術提携」という表記にとどまっているが、大学の多さを生かすためには、「連携」していくということをより強く打ち出すべきである。
- ・施策展開(2)の次世代を担う新産業の育成について、記載している例示以外にも考えられるのではないか。例えば、首都圏のバックアップ機能の位置付け、コンテンツ産業やクリエイティブ産業を育てるなど、もう少し可能性を膨らませる表現があると良い。
- ・防災面の強さは市としての売りになるし、立地の良さはブランドになり得るためPRしていくことが重要である。
- ・立地の優位性を生かせば、従来の物流拠点とは違った北関東と北陸の拠点になり

得るだろう。

- ・農業をやりたいという若者を受け入れながら、地元と一緒に農業システムを構築していくことが必要ではないか。

○施策3：地域経済を支える人材の育成と就労支援 〈特になし〉

議題（4）（仮称）重点戦略に関する意見交換

事務局から、資料4に基づき、（仮称）重点戦略の考え方とテーマイメージについて説明があり、委員による意見交換を行いました。

【主な意見】

- ・将来都市像と比べると「環境共生」や「低炭素」という言葉が抜けていると感じる。
- ・戦略名が基本方針のようで戦略の言葉になっていない。本気さを示すにはキャッチコピーが必要ではないか。
- ・高齢者と子どもの戦略は一つにまとめても良いのではないか。
- ・分野横断的なテーマとする必要があるのか疑問で、あまりこだわらなくても良いのではないか。
- ・戦略の文言を見る限り、どのまちでも当てはまるもので、重点戦略に求める視点にあるような「さいたま市らしさ」が感じられない。せめて5つ目は、さいたま市らしさをしっかりと感じられるものにするべきではないか。
- ・どこにでもあるようなまちづくりでは面白くないので、キャッチコピーが必要だ。
- ・テーマとして、防災拠点ということは外せない。このほかには、次世代のライフスタイルを見据え、EVやスマートハウスなどの取組を生かしたテーマ出したほうが良いのではないか。
- ・「さいたまコミュニティ」、「さいたまスタイル」をキャッチコピーとするなど、少子高齢化への対応も含む総括的な言葉で表現しても良い。さいたま市で暮らす面白さを出せると良い。
- ・市のPRキャラクター「つなが竜ヌゥ」から、見沼田圃など環境を大事にしていることなど、何かヒントを得られるかもしれない。
- ・市外から見ると、東日本の玄関都市や、都会と田園風景が融合したまちというイメージがあるので、こうした点でさいたま市らしさを出すことも考えられる。
- ・都心としての浦和と大宮のブランドを生かして、さいたま市らしさを出せると面白い。
- ・農村と大都市が隣接しており、オープンな交通と企業が集積していることから、東日本のグローバル拠点を実現できると思う。
- ・環境や農業についてもテーマに掲げなければ、さいたま市らしさが出てこないのではないか。
- ・強烈なさいたま市らしさがない場合、自分たちで「らしさ」をつくって磨いてい

けば良い。

- さいたま市らしさには疑問がある。普通で良いと思う。
- これからはコミュニティデザインや地域のガバナンスが大事であるので、コミュニティを、戦略4の防災と合わせてテーマとするのが良いのかもしれない。
- 産業面から観光をあえて戦略として打ち出すことも考えられる。
- キーワードとして、環境、健康、観光、コミュニティとすることも考えられる。
- 市民が市内観光を楽しむ意味合いを加え、スポーツ産業なども含めるためには、観光に代わる言葉があると良い。

その他

事務局から、部会の第5回開催日程について連絡しました。

○7月23日（火）午後2時から ときわ会館5階中ホール